

協り
地区
地だ村
国
の
郷

第49号

編集・発行
各務地区社会福祉協議会社協会費が
使われています

「地域行事でコミュニティづくりを」

各務地区社会福祉協議会 会長 長縄 秀平



日頃は、各務地区社協の活動に何かとご協力いただきまして誠にありがとうございます。

この機関紙には、当会の役員名簿や近隣ケア名簿を載せておりますが、本年度もたくさんの方々に理事・監事・評議員および近隣ケアをお願いしております。委嘱状は交付しておりますが、地域福祉のため夫々役割を果たしていただけますよう何卒よろしくお願いいたします。

さて、地域コミュニティづくりの必要性が声高に叫ばれています。少子高齢化の急速な進展や大災害への不安もその背景にあります。地域コミュニティとは、地域をより良くするために活動する住民同士の繋がりが集まりのことです。個人主義の広がりとともに希薄化してきた人間関係をどう取り戻すのか難しいところですが、住民

同士の助け合いの必要性は多くの人が自覚するところです。私はその解決の1つの方法は地域行事にあると考えています。当地区には、村国神社の子供歌舞伎やおがせ池夏祭り、ファミリウオーキングフェスタ等々たくさん行事がありますが、ここでは地域の人が行事を楽しみながら知らず知らずのうちに人間関係を確立しているのは新たな関係が生まれています。また、行事を準備し実行する側では、それぞれの役割を果たす過程で、コミュニティが成長していきます。行事は顔の見える関係をとおして、日常生活の潤滑に繋がると同時に、災害時の助け合いにも貢献することになると思います。

当会においては、地域ふれあい広場や村国の郷ふれあいの集いなどの行事を行っています。これらの行事では、今年5年目となる「歴史で広がる郷土の福祉プロジェクト」の一環とし



地域ふれあい広場

て、紙芝居の上演や健康体操、歌や踊りを楽しんでいただくメニューも準備しています。本年度のテーマはふたたび「村国男依」です。開催日程は、本誌の事業計画に掲載していますので、ぜひご参加ください。

「男依音頭」

作詞・作曲
歌倉橋 寛
松田 敏来

一

はるか昔のことなれど
天下分け目の大乱に
赤い陣旗ひるがえし
兵を率いる若者は

男依よ 男依よ 村国の
男依音頭で 踊りませ

二

飛鳥 大津に吉野へと
皇子支えて参ります
舍人仲間はいるけれど
遠い妻子も気にかかる

男依よ 男依よ 村国の
男依音頭で 踊りませ

三

不破の山から走り出て
琵琶の湖畔を駆け抜ける
はるかにかすむ大津京
目指し人馬を励ますは

男依よ 男依よ 村国の
男依音頭で 踊りませ

四

息長横河 烏籠山
安河 瀬田を攻め落とす
勝利祝って皆々と
笑う宴の楽しさよ

男依よ 男依よ 村国の
男依音頭で 踊りませ

五

はるか昔のことなれど
天下分け目の大乱に
命燃やした若者の
今も聞こえる雄叫びは

男依よ 男依よ 村国の
男依音頭で 踊りませ

今年度の主な事業

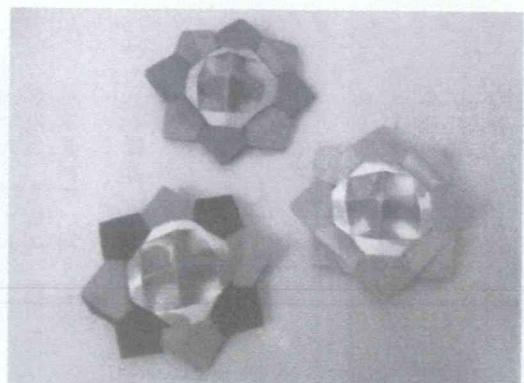
月	日	曜	事業名	場 所
4	27	土	近隣ケアグループ研修会	各務福祉センター
	4	土	第1回 理事会	各務福祉センター
5	5	日	合同総会	各務福祉センター
	18	土	地域ふれあい広場(山の前)	山の前公民館
6	15	土	地域ふれあい広場(西北島、南北島、宮之前、 城之屋敷、おがせ町第三)	各務福祉センター
			第1回 福祉講演会	各務福祉センター
	1	月	機関紙「村国の郷 第49号」発行	全戸配布
7	13	土	地域ふれあい広場(須衛第一、第二、第三、川崎団地)	須衛公民館
	20	土	おがせ池夏祭りで「各務にゆかりの三音頭」	祭り会場広場
8	17	土	地域ふれあい広場(おがせ町第一)	北島団地公民館
9	14	土	地域ふれあい広場(おがせ町第四)	池端公民館
10	19	土	地域ふれあい広場(須衛会本)	会本公民館
			第2回 福祉講演会	各務福祉センター
11	2	土	第6回 村国の郷ふれあいの集い	各務小学校体育館
	17	日	高齢者ふれあい交流	全域
12	14	土	地域ふれあい広場(西組第一、船山町西)	西組公民館
R2 1	18	土	地域ふれあい広場(西組第二、船山町東)	温井公民館
			第3回 福祉講演会	各務福祉センター
2	15	土	地域ふれあい広場(東組北)	東部公民館
	23	日	横断旗設置事業	全域
3	1	日	機関紙「村国の郷 第50号」発行	全戸配布
	7	土	第2回 理事会	各務福祉センター
	8	日	合同総会	各務福祉センター
	21	土	地域ふれあい広場(おがせ町第五)	おがせ公民館



今年度の地域ふれあい広場

< メニュー >

- (1) 男依健康体操
- (2) 紙芝居「村国男依と壬申の乱」
- (3) 折り紙でコマ作り
- (4) 綿菓子プレゼント
- (5) ビンゴゲーム



コマの折り紙

ボランティアハウス

事業名	活動日時	場所
ボランティアハウス船山	毎月1回 (第2日曜日 14時00分より)	船山西町集会場
ボランティアハウスさくら会北島	毎月1回 (第1火曜日 11時30分より)	北島団地公民館
ボランティアハウスQ.O.L	毎週2回 (月曜日・金曜日 13時30分より)	山の前公民館
ボランティアハウス結の会	毎月6回 (土曜日、第2・3月曜 10時00分より)	須衛公民館
ボランティアハウス庵 (いおり)	毎月1回 (第1日曜日 9時30分より) 他	デイサービス庵(いおり)
ボランティアハウス かいもとふれあいハウス	毎月1回 (第4月曜日 14時00分より)	会本公民館

ボランティアハウスは、地域の人々が閉じこもりにならないように集まり、楽しく交流することを目的としています。

定期的に行なうことで地域の支えあい、助け合いの輪が広がります。

当地区では6つのグループがそれぞれ活動しています。



「村国男依と壬申の乱」のあらすじ

遠い昔の飛鳥時代、村国郷の豪族の家に生まれた男依は、大海人皇子の舎人となって仕えました。大海人皇子の兄・天智天皇が亡くなると、その子・大友皇子が次の天皇に就きます。しかし、年若い天皇は周りの重臣たちが言うままの政治を続けざるを得ませんでした。大海人皇子は、今の朝廷にこの国を任せてはおけないと遂に戦う決心をし

す。古代最大の内乱・壬申の乱の勃発です。

男依はいち早く関ヶ原を通る不破道を塞ぐとともに、美濃や尾張の兵を不破に集結させました。そして、大軍を率いた男依將軍は、不破から琵琶湖の南を進んで大津京を目指します。途中、あちこちで激しい戦闘が繰り広げられるも男依は大奮闘し、遂に味方を勝利へと導きました。



戦の最大の功労者・男依には官位や領地など格別な褒賞が与えられました。

乱の翌年、大海人皇子が天武天皇として即位してからも男依は中央の貴族となって都で活躍します。しかし、乱の終結からわずか4年後、男依はこの世を去ってしまいました。郷土の英雄・男依は、日本最古の歴史書・日本書紀に登場し、その名を今に伝えています。

近隣ケアグループ

近隣ケアグループの活動は、地域において声掛けや見守りを通して支援が必要な人をその地域で支える取り組みです。この活動に活発に取り組むことによって、地域生活において孤立することなく、日々の暮らしを安心して続けることができます。

また、緊急時や災害時にも住民同士が助け合って、早く適切に対応できるようになると期待されます。

現在、各務地区では24グループ146名のボランティアの方が活躍されています。

	グループ名	代表者氏名	グループ員氏名			
西組	仲の宮さわやか(西町第一)	長谷川裕子	篠田 直子	福 千恵美		
	金山会(西町第一)	五島ゆみ子	西村佳奈子	足立 直美		
	船山東(船山町東)	井川 梨沙	佐田しの子	篠田 宣子	永井ふさ子	松波 秀生
			小川沙央里			
	たんぽぽ(温井)	柴山 滋	左高 郁夫	左高 行浩	広沢 尚	長縄 芳美
			黒井 守生			
中組	船山会(船山町西)	高木 陽子	野田 文子	奥出留美子	岡部 裕子	
	北島団地(おがせ第一)	塩崎 文雄	井戸 邦夫	長屋 佳嗣	真木千佳子	渡邊 慶次
			本田 輝義	藤元 三郎	渡辺 利博	高井 大輔
			気谷 由次			
	西北島	塚本由美子	柴山 和哉	澤井 敏勝	柴山 幸子	柴山 智子
			柴山 徳江	柴山 和子		
	南北島	後藤 葉子	後藤 浩子	後藤 和枝	澤井須磨子	河井貴美子
	宮之前	長縄 武司	澤井 洋平	中村 和夫	高岡 昭浩	市村 瑞穂
			澤井 三男	中林 勝		
	おがせ町第三	足立 富子	足立 直美	中道 定子	足立みどり	後藤由美子
			後藤喜美子			
	城之屋敷	左高喜久代	山田有見子	長縄 ひかり	長縄 浩司	長縄 初美
			左高枝智子	長縄 美香	関原 君男	
	すいれん (おがせ町第四)	三代やよい	深尾美恵子	後藤きみ子	沢木ちづ子	五島千津子
			長縄由利枝	宇野のぶ子	浅野 房子	後藤真由美
			船戸 智子	鈴木 和子	堀尾 千穂	沖 米子
東組	さわやか会 (おがせ町第五)	永田美千子	大久保富士子	松原 れい	小瀬香代子	柿野 益美
			面家久美子	中山美枝子	三好 明美	田中かず江
			中村 美保			
	あすなろ(洞、洞川南)	長縄 文代	長縄 里枝	長縄 智子	小野木善子	船戸 順子
須衛	ひまわり(木戸・宮の前)	鈴木 玉夜	岩田たまき	今村久美子	宇野 真貴	澤井 敦子
	すこやか(山の前西)	梅村 きく	五島美津子	五島 三和	松山好志恵	水野 幸世
			安達 保子	荻須 道代	近松加緒里	
	たんぽぽ(山の前東)	五島千江美	林 豪太	若田 智子	田辺 輝美	五島 純二
須衛			森川 薫	三上 里美	塩谷真奈美	
	須衛第一 金場	白木 康子	古田佐枝子	空野 良三	古田 徹	古田 俊治
			白木 里子	古田 正俊		
	須衛第二 向田	石田 健司	石田千鶴江	丹羽 正幸	石田 信二	
	須衛第二 倉屋敷	川崎 務	川崎 道子	川崎 尚子	八木ヒデ子	荻谷 雅恵
	川崎団地	中野 進	古川さゆり	高平 弥生	今井 省三	丸山 照夫
	須衛第三 宮東	足立みゆき	濱田 圭子	濱田 昭仁	足立 満	
須衛	須衛第三 南屋敷	深尾 隆司	深尾けい子	深尾 治郎		
	会本	宇野 美穂	早川 美幸	早川 津義	宇野 秀彦	

令和元年度 各務地区社会福祉協議会役員

役職名	氏名	備考
顧問	瀬川 利生	各務原市議会議員
顧問	黒田 昌弘	各務原市議会議員
会長	長縄 秀平	
副会長	五島 一征	民生委員児童委員各務小校区代表
副会長	黒井 一雄	各務自治会連合会長、西組区長
副会長	宇野 京志	東組区長、東組北自治会長
副会長	古瀬 武	中組区長
副会長	宇野 勤	須衛区長、青少年育成市民会議小校区推進委員長
福祉推進員	五島 逸朗	民生委員児童委員
福祉推進員	宇野 卓夫	民生委員児童委員
理事	白木 充	民生委員児童委員
理事	左高 政二	民生委員児童委員
理事	足立 鉄男	民生委員児童委員
理事	柴山 定司	民生委員児童委員
理事	早川 富保	民生委員児童委員、ボランティアハウスいもとふれあいハウス代表
理事	濱田 宏一	民生委員児童委員
理事	後藤 正彦	民生委員児童委員
理事	佐藤 美法	主任児童委員、(各務小校区・八木山小校区担当)
理事	鈴木 茂	青少年育成市民会議小校区推進指導員
理事	桑村多鶴子	ボランティアハウスさくら北島代表、各務シニアクラブ会長
理事	鈴木由里子	ボランティアハウスQ.O.L代表
理事	古田 絹子	ボランティアハウス結の会代表
理事	片岡 みか	ボランティアハウス庵(いおり)代表
理事	五島ゆみ子	西組近隣ケア代表、近隣ケア金山会代表
理事	塩崎 文雄	中組近隣ケア代表、おがせ第一自治会長、近隣ケア北島団地代表
理事	鈴木 玉夜	東組近隣ケア代表、近隣ケアひまわり代表(木戸宮の前)
理事	中野 進	須衛近隣ケア代表、近隣ケア川崎団地代表
監事	長縄 典光	東組副区長
監事	足立 寛	須衛副区長
評議員	足立 可彦	各務校区体育振興会会長
評議員	足立 聡	各務小学校PTA会長
評議員	奥村 麻美	子ども会育成本部会長
評議員	早川 貞幸	ふれあい活動指導員
評議員	吉田 典子	ふれあい活動指導員
評議員	寺野久美子	ふれあい活動指導員
評議員	宇野 一美	ふれあい活動指導員
評議員	森田 鈴子	ふれあい活動指導員
評議員	澤井 昌子	ふれあい活動指導員
評議員	長縄 寿信	西組副区長
評議員	後藤 佳政	中組副区長
評議員	白木 知之	須衛第一自治会長、金場常会長

役職名	氏名	備考
評議員	川崎 務	須衛第二自治会長、倉屋敷常会長、近隣ケア須衛第二倉屋敷代表
評議員	足立 満	須衛第三自治会長、宮東常会長
評議員	加藤 幸三	川崎団地自治会長
評議員	石田 謙司	向田常会長、近隣ケア須衛第二向田代表
評議員	深尾 隆司	南屋敷常会長、近隣ケア須衛第三南屋敷代表
評議員	宇野 秀彦	会本組長
評議員	塚本 忠	西北島自治会長
評議員	後藤 修一	南北島自治会長
評議員	清水 誠二	宮之前自治会長
評議員	左高 修二	城之屋敷自治会長
評議員	足立 栄	おがせ町第三自治会長
評議員	長縄 隆	おがせ町第四自治会長(池端)
評議員	足立 昭嘉	おがせ町第五自治会長(おがせ団地)
評議員	高木 雅弘	船山町西自治会長
評議員	井川 佳泰	船山町東自治会長、青少年育成市民会議小校区推進指導員
評議員	足立 勉	西組第一自治会長、金山常会長
評議員	柴山 滋	西組第二自治会長、温井常会長、近隣ケアたんぼぼ代表(温井)
評議員	黒井 春男	仲の宮常会長
評議員	足立 秀幸	駒場常会長
評議員	鈴木 利行	木戸宮の前常会長
評議員	長縄 一哉	洞東常会長
評議員	長縄 正宏	洞西常会長
評議員	浅野 定男	洞川南常会長
評議員	塩谷 純二	山の前自治会長、山の前東町内会長
評議員	推野 正俊	山の前西町内会長
評議員	長谷川裕子	近隣ケア仲の宮さわか代表
評議員	井川 梨沙	近隣ケア船山東代表
評議員	高木 陽子	近隣ケア船山会代表
評議員	後藤 葉子	近隣ケア南北島代表
評議員	塚本由美子	近隣ケア西北島代表
評議員	長縄 武司	近隣ケア宮之前代表
評議員	足立 富子	近隣ケアおがせ町第三代表
評議員	左高喜久代	近隣ケア城之屋敷代表
評議員	三代やよい	近隣ケアすいれん代表(おがせ町第四)
評議員	永田美千子	近隣ケアさわか会代表(おがせ町第五)
評議員	長縄 文代	近隣ケアあすなろ代表(洞・洞川南)
評議員	梅村 きく	近隣ケアすこやか代表(山の前西)
評議員	五島千江美	近隣ケアたんぼぼ代表(山の前東)
評議員	白木 康子	近隣ケア須衛第一金場代表
評議員	足立みゆき	近隣ケア須衛第三宮東代表
評議員	宇野 美穂	近隣ケア会本代表

各務の歴史 連載⑤

「村国連氏の

氏族的性格(二)」

文・上村 南耀

村国連男依は「壬申紀」では「男依等」として度々登場しますが、天武元(672)年六月二十二日と天武五(676)年秋七月以外には連の姓が書かれていません。『日本書紀』では普通、新しく姓が与えられると、その事が書かれます。けれども男依の場合は、連の姓が与えられた具体的日付はどこにも見当たりません。

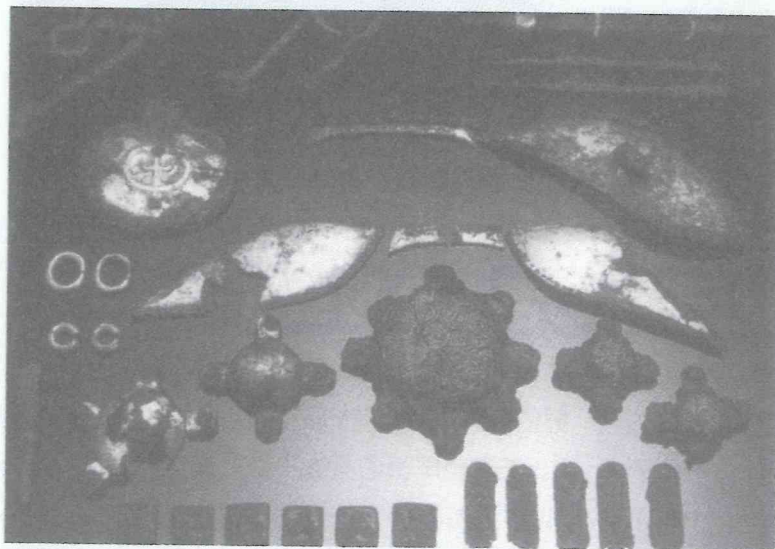
天武天皇五(676)年秋七月に村国連男依が卒したこと、壬申の功をもつて外ノ小紫ノ位(大宝令の従三位相当)を贈ったことが書かれているだけです。この場合の外とは地方豪族の出身者を表します。

一方、『続日本紀』巻二の大宝元年秋七月二十一日の条には「先朝功を論せしめ封を行う時、村国小依に百廿戸を賜つ」と無姓で記されています。また、他の功臣の中には三十年後の大宝二(702)年九月になって臣姓を賜っている事例があります。これらを根拠にして乱の功績により村国男依が連の姓を賜ったというのが通説です。

男依は、壬申の乱の記述では姓持ちの將軍たちを差し置いて「男依等」と表現され、他の人物と比べると圧倒的に頻繁に登場します。

舍人(男性)や采女(女性)は、皇族の身の回りの雑用を仕事にする近習です。それ故、古くより臣従する信頼のおける氏族から選ばれました。無姓の庶民層から突然、側近に登用することなどあり得ません。

また、姓を持たない者を將軍に任命しても、皇子



馬具や甲冑の部品

の舍人といっただけで、他の氏族將兵が素直に指揮下に入るでしょうか。少なくとも任命直前に姓をいづるのがあるべきではないでしょうか。

では、村国氏とはどんな氏族であったのでしょうか。市史編纂後に明らかになったことを基に述べてみたいと思います。

一 目は鶴沼の大牧地区に男依の曾祖父や祖父と同世代の有力者のものと考えられる古墳があることです。前者は大牧号墳(六世紀後半)で、後者がふな塚古墳(六世紀末～七世紀初頭)です。

大牧号墳の被埋葬者は、並の小豪族の持ち物とは程遠い、銀象嵌が施された飾り馬具や挂甲(甲冑)を所有していたことが出土物から判明しています。挂甲の出土物は完成品ではなく部品の小札ですが、挂甲とは大陸の騎馬民族の甲冑の類です。

二 目は古墳の表面が川原石で綺麗に書かれ、川原石積横穴式石室が築かれていることです。さらに大牧号墳には雲母片や鉄滓の供え物があり、ふな塚古墳は石室奥壁隅に地鎮祭に類するような意味をもつとされる土師器が埋められていました。

考古学の研究者たちは、これらの点について朝鮮半島南部辰韓の新羅(韓国慶尚北道)の慶州忠孝洞六号墳や馬韓の百濟の埋葬習俗との類似性に注目しています。また、鉄滓の埋葬の事例から鉄器生産を総括する立場の首長とのかかわりを想定している研究者もいます。男依の一族は、ある程度、武人の性格も持ち合わせていたと見ていいでしょう。